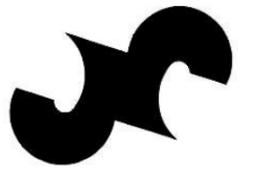


工業部会 通信



(発行) かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
KANAKEI

受発注商談会 参加企業募る

発注側16社参加予定

その案件、相模原の製造業にお任せください。
相模原商工会議所は3月2、3の両日「受・発注商談会」を開催する。現在、受注企業を募集しており、相模原のみならず、県央や横浜、川崎などの企業にも参加を呼びかける。締め切りは2月14日。参加無料。

相模原商工会議所

会議所単独開催として、今回は2回目。神奈川産業振興センターが協力。横浜銀行やきらほし銀行、市産業振興財団などが後援する。コロナ禍で商談機会が減る中、県内中小企業の販路開拓に役立ててもらおう。商談は直接面会かオンラインのハイブリッド方式で、参加者の希望に沿う。現在、発注企業は16社参加する予定で、商談したい受注企業を選んでもらい、事務局でマッチングする。その後は両者の商談日程を調整した上で実施する。今回の受注企業は25社程度の参加を見込んでい



相模原市内企業のブースも盛況

全国から759社 独自技術を披露



23都道府県から出展

テクニカルシヨウ開催

首都圏最大級の工業技術・製品見本市「テクニカルシヨウウヨコハマ2023」が2月1〜3日、横浜市西区・みなとみらい21 (MM21) 地区のパ

シフィコ横浜で開催された。神奈川産業振興センターなどの主催で44回目。県内企業を中心に長野、新潟など23都道府県から759社が出展し、自社技術や製品をアピール。相模原市内企業も、トライアル発注認定企業などを中心に出展した。今回は「New World King・Lifeスタイル／カーボンニュートラル」「DX・AI・IoT」「加工技術」「機器・装置・製品／ロボット」「研究開発」「ビジネス支援」といった6つのテーマで出展ゾーンを設けた。また、リアル開催とともにウェブ展示会も同時



同装置でリサイクルされたペレット

日本油機 プラ再生機需要増 原材料高騰が背景

景に注目されている。問い合わせ件数が昨年比の倍になっているという。同装置は、プラスチック成形工場では必ず発生する廃材や余剰材を専門業者に引き渡さなくても、自社工場内でそのまま再生原料(再生ペレット)に変えられるもの。いわば「自家製」を可能にするプラ再生装置だ。再生ペレットもバージン材(新材)と変わらない品質という。「これまではプラスチック原料を1トン購入していた工場が(余剰材などを工場内リサイクルすることで)600キロの購入で済んだケースもあります」と、市川博章社長。原材料価格が抑えられると同時に、環境配慮にもつながるとして、自動車や電機業界など、各産業分野からの引き合いが絶えない。エンジニアリングプラスチック(エンジニア)やスーパーエンジニアといった、無駄にできない高価な材料では、なおさら効果を発揮するという。同装置に破碎された余剰材などをスクリーンリナダーに投入。そこで材料として劣化しないよう低温で溶融。そして、ひも状に押し出し水槽内で冷却、最終的にカッターで再生ペレットにする。すでに累計800台を販売。東南アジアを中心に売上高海外比率も3〜4割に高まっているという。



装置を説明する市川社長



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会